



地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和元年度 みみらんどセミナー第1回



テーマ「子どもの発達を踏まえ、日本語の力をつけるための指導・支援」

去る6月26日(水)、聴覚障害児教育福祉協会・筑波大学講師の松本末男先生をお招きし、地域の幼稚園、小・中学校の先生方や保健師さんにもご参加いただき、第1回セミナーが開催され、実りある研修会となりました。

教師の在り方と目の前の子どもたちのとらえ

子どもを読み解き、課題をとらえる

【課題とは】

- 子どもたちが楽しくいきいきと学ぶ姿が見たい
- 子どもたちの書き言葉の獲得をもっとスムーズにしたい
- 子どもたちに自信をつけて欲しい
…そのために教師には方略が欲しい
- 子どもたちが自分を客観視できるようにしたい
- 教師が変わり 学校が変わること

私たち教員が変わり、学校が変わるためにやるべきことについて、乳幼児期、幼稚部、小学部、中学部、高等部、専攻科それぞれの段階ごとにご教授いただきました。どれも具体的で、明日から頑張ろうと活力をいただけるとともに、教育の責任を改めて実感するメッセージばかりでした。

この子は絶対にできるし、伸びていく。
その子の力を最大限に伸ばすために、
その子の意欲を刺激する関りを!

【参加者の感想】

★ 書き言葉の大切さについて改めて教えていただき、明日から心がけていきたいと感じました。内容が濃く時間があっという間でした。また別の機会にお聞きできればと思います。

《ことばの問題》

- ・意思の疎通ができること
- ・言葉を活用して「わかる」こと、わかりたいと思うこと
- ・手話の言葉、話す言葉→書き言葉(連鎖)
- ・論理的に考えると、やはり最終的には書き言葉に関わる。

最終的には書き言葉

幼稚部段階では話しことばでのやりとりができる力を、小学部低学年では書ける力を身につけること。その上で学年相応に子ども達が考える発問を教師が工夫し表現できる力を身につけること。

